

都道府県・指定都市番号	35	都道府県・指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	1 小学校
				教科等名	国語
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究</p> <p>(イ)全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法の工夫改善に関する研究</p>				
学校名 (児童数)	<p>山陽小野田市立 高千帆小学校 (633人)</p>				
所在地 (電話番号)	<p>山口県山陽小野田市くし山 1-25-1 (0836-83-2642)</p>				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<p>https://sites.google.com/edu.cty-so.jp/takachiho/</p>				
研究のキーワード	<p>・学習過程の工夫改善 ・叙述や情報に基づいた「精査・解釈」 ・言葉に対する自覚</p> <p>・自らの思いや考えの再構築 ・学習評価</p>				
研究結果のポイント	<p>○ 言語活動（単元を通じた学習課題）を意識した単元計画やめあてを設定すること。</p> <p>○ 子ども同士の協働が活性化する学び合いの場の設定や教材・教具の工夫をすること。</p> <p>○ 指導事項を確認し、評価規準や評価計画を作成すること。（指導と評価の一体化）</p> <p>○ 自らの学習を振り返る「振り返りの時間」の充実を図ること。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成
 ～深い学びの実現を目指した学習過程の工夫及び学習評価の研究を通して～

(2) 研究主題設定の理由

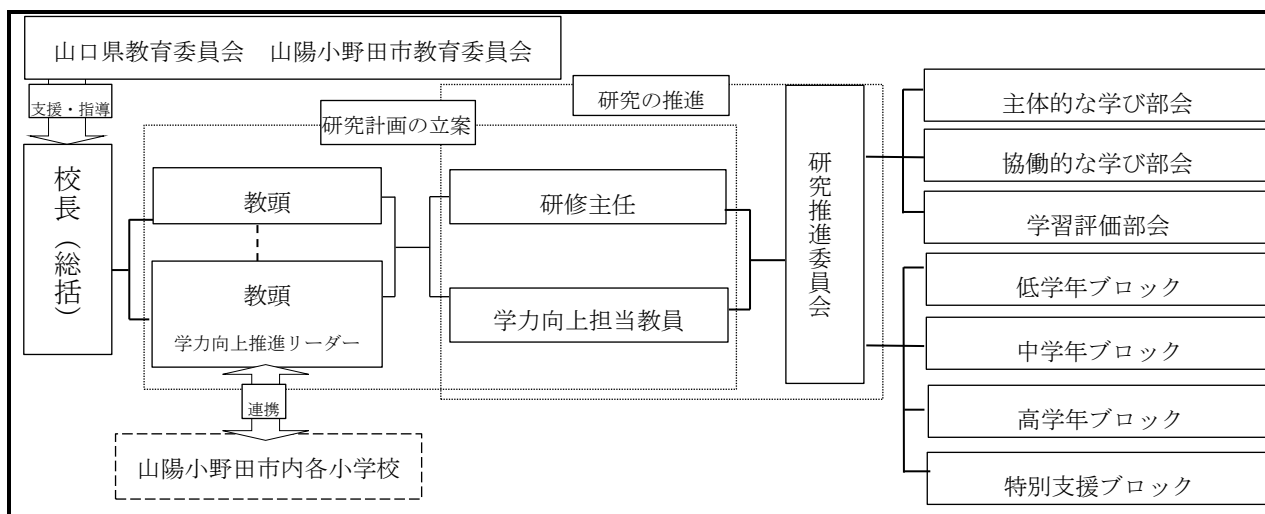
本校の全国学力・学習状況調査の結果は、近年、国・県の平均正答率を継続して上回っており、特に国語科においては、領域別のいずれの観点も良好な結果である。本市で取り組んでいる「モジュール学習」等により基礎的・基本的な力が着実に定着しつつあることによると考えている。しかし、「文章や複数資料から必要な情報を選択し、目的や意図に応じて適切に活用する能力」「条件に応じて、適切に表現する能力」等、継続した課題の解決には至っていない。また、そういった課題を授業の中で解決し、求められている資質・能力を高めていく授業改善はまだ十分ではない。

過去3年間の全国学力・学習状況調査結果を分析したところ、課題の見られた設問の多くに「目的（や意図）」というキーワードが見られ、児童が明確な目的や意図をもった上で、国語科において「話す・聞く」「書く」「読む」といった資質・能力を身に付けることができていないのではないかと仮説を見いだすに至った。

そこで、授業の中で、各種学力調査等の結果分析に基づいた課題の解決に向け、児童が自らの考えをもった上で、その考えをより明確なものとして確立できるような学習過程や指導方法の工夫改善を研究の視点としたい。具体的には、国語科「C読むこと」を中心に、児童が、言葉を媒介としながら他者と関わったり、情報を整理したりする中で、言葉に対する自覚を高め、自らの思いや考えをより明確に再構築できるような学びを「深い学び」と捉え、その実現を目指した研究を進めて

いきたいと考える。また、児童が粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面を評価することで、自らの学びを深め、見いだした新たな課題に向けた意欲につなげるような学習評価について研究を図りたいと考える。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	4月	研究組織の編制，全国学力・学習状況調査の結果分析
	6月	研究授業（第3学年「登場人物のへんかに気をつけて読み，感想を書こう（まいごのかぎ）」）
	7月	伊坂調査官による研究授業についての指導，学習評価についての研修
	8月	研究授業及び中間発表会に向けての授業計画作成
	9月	研究授業（第2学年「そうぞうしたことを，音読げきであらわそう（お手紙）」）
	10月	先進校視察（高知県四万十市立中村小学校）
	11月	中間発表会・公開授業（第6学年「登場人物の関係をとらえ，人物の生き方について話し合おう（海の命）」）・研究協議
	2月	成果の分析・研究のまとめ
令和3年度	4月	研究組織の編制，研究の方向性の共通理解，学習評価についての研修
	5月	令和3年度全国学力・学習状況調査の実施
	6月	研究授業（第3学年「段落とその中心をとらえて読み，かんそうをつたえ合おう（こまを楽しむ）」）
	7月	渡辺調査官による研究授業及び研究についての指導
	8月	研究授業・成果発表会に向けての授業計画作成
	11月	成果発表会・公開授業（第5学年「物語の全体像をとらえ，考えたことを伝え合おう（たずねびと）」，第2学年「自分と比べて，かんそうを書こう（わたしはおねえさん）」）・研究協議
	1月	先進校視察（山口県長門市立深川小学校）
2月	先進校視察（福岡教育大学附属福岡小学校）成果の分析・研究のまとめ	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 国語科「C読むこと」領域の学習指導を中心とした研究の推進

【1年次】《学習過程の工夫改善》

導入段階	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報から課題解決の糸口を見いだしたり、文章の構造や内容などを把握したりするための課題提示や発問の在り方 ・自らの考えを形成し学習の見通しをもつための導入の在り方
展開段階	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や複数の情報から目的や意図に応じて情報を選択することで自分の考えを明確にしたり、構築したりする学習活動の在り方 ・考えを交流し確認し合いながら、より深めるための効果的な「対話的な学び」のスタイルの在り方
終末段階	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題解決の見通しをもつための振り返りの在り方 ・学びの深まりが実感できるための振り返りの視点のもたせ方

【2年次】《学習評価についての研究》

単元導入段階	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の知識及び技能との関連付けや活用に関わる評価（知・技） ・学習の進め方等、見通しをもって学習に臨む意欲面での評価（主）
単元展開段階	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と関わりながら自らの学びを広げ深める学習状況の評価（思・判・表） ・自らの学習の状況を把握し、学習の進め方等について試行錯誤するなどの学習調整力に関わる評価（主）
単元終末段階	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を通じた学習の習得状況に関わる評価（知・技） ・課題解決の結果、次課題への意欲に関わる評価（主）

(2) 具体的な研究活動

① 国語科「C読むこと」領域の学習指導を中心とした研究の推進

・カリキュラムマネジメントの推進

「複数の文章や資料の中から必要な情報を選択し、目的や意図に応じて適切に活用する能力」と「条件に応じて適切に活用する能力」の育成という課題を共有し、系統性を意識した組織的な指導を行った。

・指導と評価の一体化の実現

単元で身に付けさせたい資質・能力（指導事項）を明確にし、言語活動が課題解決の過程として展開されるものになるように単元づくりを行った。また、「単元計画シート」を活用し、各時間の学習課題が単元全体の学習課題と結び付いているかを確認できるようにした。

また、評価計画を作成することで、単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて、どのような方法で評価するのかを明確にすることができた。評価規準について実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）への手立てを想定しておくことで、児童のつまづきがどこにあるのか見極め、効果的な指導を行えるようにした。

② モジュール作文（条件付き作文）

毎週水曜日にモジュール学習の15分間を活用して「モジュール作文」と名付けた短時間の条件作文を全校で統一して行った。児童の発達段階に応じたテーマや条件を指定した課題を用意し、自分の考えを表現する力の育成に取り組んだ。

③ 児童の学力や学習状況の分析

児童の現状を把握するために、全校児童に国語科に関するアンケートを年2回実施した。また、全国学力・学習状況調査の結果を本校の研修と関連付けて分析を行った。

④ 教職員の意識改革

本校教職員の授業づくりに対する理解や意識についてのアンケートを年2回実施した。また、

全教職員が単元計画シートを活用した学習指導案を作成して授業公開を行い、研究を深めた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○ カリキュラムマネジメントの推進

複数の文章や資料の中から必要な情報を選択し、目的や意図に応じて適切に活用する能力」「条件に応じて適切に活用する能力」という課題を共有し、系統性を意識した組織的な指導を行うことができた。

○ 指導と評価の一体化の実現

「単元計画シート」を活用し、毎時間の課題が単元を通した学習課題と結び付いた学習計画を作成することができた。また、評価規準について実際の学習活動を踏まえ、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）への手立てを想定しておくことで、児童のつまずきがどこにあるのか見極め、以下のような効果的な手立てを講じることができた。

① 複数の資料から必要な情報を見付けることができるようにするための手立て

- ・ 目的に応じて、どの叙述に着目するのかを明確化したり、必要な情報がどこに書かれているかを判断したり、どの部分とどの部分が結び付くのかを明確にしたりすること。
- ・ ICT等を活用して情報を「見える化」し、視覚的に整理できるようにすること。

② 見付けた情報をもとにして解釈できるようにするための手立て

- ・ 複数の叙述に着目して比較したりまとめたりする場面を設定すること。
- ・ 「理由」を表出させる工夫、「考え、書く」時間を確保すること。
- ・ もとになる情報を示しながら、考えと理由を交流することで、それぞれの考えが自分の体験や読書経験に基づいていたり、他の情報と関係付けられたりしていることに気付くことができるようにすること。

③ 自分の考えが伝わるように記述することができるようにするための手立て

- ・ 優れた文章の例を意図的に提示し、文章の例を基に記述の留意点を伝えたり、文章の例を模倣したりすることができるようにすること。
- ・ 書いた文章を友達と交流して確かめるなど、書いたものを評価し、見直したり書き直したりする習慣を付けるためのノートやワークシートを用いた交流場面を設定すること。

○ 10月実施の「山口県学力定着状況確認問題」では、研究と関連のある設問は、5・6年生ともに高い正答率を記録することができた。特に、今年度の全国学力・学習状況調査で課題となっていた「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」について出題された設問においては、県平均より20ポイント以上の高い正答率を記録することができた。

○ 教職員アンケートにおいては、「そう思う」「ややそう思う」の割合が増えた。

● 年2回の授業アンケートからは児童の意識の大きな変容を見取ることができなかった。

4 今後の取組

- ① 研究の成果を他教科でも生かし、「複数の情報から課題解決の糸口を読み取り、自分の考えを明確にしたり、構築したりする力」の育成を図り、本校の研修主題である、主体的に学び続ける子どもを育成していくこと。
- ② 「全国学力・学習状況調査」を活用することで、児童一人一人の学力・学習状況を適切に捉え、児童一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実を図っていくこと。
- ③ 児童自身が学びの深まりや自らの成長を実感できるようにするために、学習の振り返りの改善・充実を図ること。